

令和 4 年 6 月 20 日現在

機関番号：34310

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2021

課題番号：20K21999

研究課題名（和文）平家物語の伝本関係の再構築 語句分析を手段として

研究課題名（英文）Reconstruction of the Relationships Among Variant Manuscripts of the Heike Monogatari : Detailed Analysis of the Words and Phrases

研究代表者

城阪 早紀 (KISAKA, Sauki)

同志社大学・研究開発推進機構・助手

研究者番号：60852605

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,600,000円

研究成果の概要（和文）：(1)『覚一本平家物語』と『延慶本平家物語』について、どの語句が何回使われているのかをまとめた「平家物語伝本語句対照表」を作成し、一方にのみ使われる語句・多く使われる語句にはどのようなものがあるかを明らかにした。
(2) 批評句として用いられる形容詞「うたてし」「あさまし」などを取りあげ、両本における使用基準の明確な差異を把握した。この差異は、一作品の異文の範疇を超えるものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究期間内の成果は、これまで『平家物語』の異本として位置づけられてきた覚一本・延慶本を、それぞれの編纂方針に基づく別作品『覚一本平家物語』・『延慶本平家物語』と捉え直すのが妥当ではないかと問題提起するものである。伝本関係の再構築にあたり、調査対象を『覚一本平家物語』・『延慶本平家物語』以外にも広げること、それに伴って検討する語句を多くすることが、さしあたり取り組むべき課題である。

研究成果の概要（英文）：(1) This project has made a comparison table of words and phrases of "Kakuichi-bon Heikemonogatari" and "Enkyo-bon Heikemonogatari" that shows which words and phrases are used and how many times. This table shows which words are used only in one or the other, and which are used a lot.

(2) An analysis of the adjectives "utateshi" and "asamashi", words used in criticism, reveals clear differences in meaning and usage between "Kakuichi-bon Heikemonogatari" and "Enkyo-bon Heikemonogatari". This difference indicates that the two manuscripts are different works.

研究分野：日本文学

キーワード：軍記物語 『覚一本平家物語』 『延慶本平家物語』 語句

1. 研究開始当初の背景

一般に『平家物語』という書名は、「平家物語」と称される伝本群(覚一本・屋代本・延慶本・長門本・南都本・四部合戦状本など)と「源平」を冠する伝本(源平闘諍録・源平盛衰記)の総称である。これら多くの伝本を、どのように関係づけ、理解するかという問題がまずあり、平家物語研究は諸本論を中心に進められてきた。

伝本の相違は、物語中の出来事や説話を年表のようにまとめて構成を比較する方法や、章段や説話の本文を対照させて表現を比較する方法によって検討されてきた。しかし、その目的が伝本の先後関係を明らかにすること・古態の究明に重きが置かれていたためか、その相違は、延慶本の本文から覚一本へ、つまり未整理の段階にあったものが整えられ文学的な達成を遂げた、のような図式で把握されることが多かった。

しかしながら、平家物語伝本の相違には、物語の質に関わるものも認められるように思われる。伝本に独自の編集方針があることを明らかにすれば、これまで『平家物語』の一伝本として扱われてきた覚一本と延慶本とを、『覚一本平家物語』と『延慶本平家物語』というように、一つの作品として捉えるという、新たな伝本関係を構築できると考えた。

2. 研究の目的

この研究は、『覚一本平家物語』(以下「覚一本」と)と『延慶本平家物語』(以下「延慶本」と)の編纂方針を、語句分析から明らかにし、両本の相違と明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

次のように、研究を進めた。

(1) 本文の選定

覚一本と延慶本の本文は、次を用いた。

覚一本(龍谷大学本)

覚一本の語句の整理には、

金田一春彦・清水功・近藤政美編『平家物語総索引』学習研究社、1973年。

を用い、

笠栄治編『平家物語総索引』(復刻版)牧野出版、1998年(初版1973年)。

も参照した。本文は、両索引が拠っている

高木市之助・小澤正夫・渥美かをる・金田一春彦校注『平家物語』上・下(日本古典文学大系)岩波書店、1959-60年。

を用いた。章段の設け方・名称もそれに拠り、その主たる底本である龍谷大学本が持たない本文(巻1「祇王」や巻9「小宰相」)も取り上げた。

龍谷大学佛教文化研究所編『平家物語』一～四(龍谷大学善本叢書)思文閣出版、1993年。

延慶本(応永書写本)

延慶本の語句の整理には、

北原保雄・小川栄一編『延慶本平家物語・索引編』上・下、勉誠社、1996年。

を用い、本文は索引が拠っている

北原保雄・小川栄一編『延慶本平家物語・本文篇』上・下、勉誠社、1999年(初版1990

年)。

を用い、影印と注釈書も参照した。

延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈』一～十二・別巻、汲古書院、2005-21年。

『延慶本平家物語』一～六(大東急記念文庫)汲古書院、1982-83年。

(2) 語句の収集・整理

物語の編纂方針の相違を明らかにするために、下の基準で語句を選出することにした。下の語を中心に、関連語・複合語を合わせて500語余りの用例収集・整理を行った。

「うたてし」「あさまし」など、物語内容を批評する語句

「勅勘」「朝敵」など、歴史・物語認識に関わる語句

「理」「忠」など、道理・善悪に関わる語句

「縁」「浄土」など、仏教語

(3) 関連書籍・辞典

平家物語の語句・事象をまとめた辞典・事典として、～がある。は覚一本(高野本)の語彙を他の作品を対照させている。これらを参照しつつ、語句の分析を進めた。

市古貞次編『平家物語辞典』明治書院、1973年。

市古貞次編『平家物語研究事典』明治書院、1978年。

大津雄一・日下力・佐伯真一・櫻井陽子編『平家物語大事典』東京書籍、2010年。

宮島達夫・鈴木泰・石井久雄・安部清哉編『日本古典対照分類語彙表』笠間書院、2014年。

4. 研究成果

研究成果は、成果報告書(『語句分析から『覚一本平家物語』と『延慶本平家物語』の相違を考える』、国立国会図書館書誌ID:032057298)および、雑誌論文にまとめた。

これらの成果は、これまで平家物語の異本として位置付けられてきた覚一本・延慶本を、それぞれの編纂方針に基づく別作品と捉え直すのが妥当ではないかと問題提起するものである。伝本関係の再構築にあたり、調査対象を覚一本・延慶本以外にも広げること、それに伴って検討する語句を多くすることが、さしあたり取り組むべき課題である。

(1) 語句対照表

覚一本と延慶本において、どの語句が何回使われているかを、対照して表にまとめた。すなわち、五十音順で、「あさまし」「うたてし」「うん(運)」「えん(縁)」「きたなし」「ことわり(理)」「じゃうど(浄土)」「たのもし」「ちゆう(忠)」「ちよく(勅)」「ついたう(追討)」「てうてき(朝敵)」「てん(天)」「はぢ(恥)」「ふしぎ(不思議)」「ぶつぼふ(仏法)」「むほん(謀叛)」「らうぜき(狼藉)」「わうぼふ(王法)」とその複合語・連語や関連語、合計350語余りについて、その用例数を対照させ、語句の意味・用法の理解を助けるための用例を記した。

▶ 城阪早紀「平家物語伝本語句対照表試稿」『語句分析から『覚一本平家物語』と『延慶本平家物語』の相違を考える』成果報告書、2022年3月、pp.2-36。

(2) 語句の意味・用法

特にいくつかの語句を取り上げて、意味・用法を詳述し、両本における使用基準の明確な差異を把握した。具体的には、編者が物語中の人物や出来事をどのように捉えたかを知ることができる批評句(3.(2)に相当)「うたてし」「あさまし」と、「うたてし」と同様に負の評価を示す「まさなし」・「きたなし」について分析した。

「うたてし」

覚一本の「うたてし」は、平家一門をはじめ滅び行く者の嘆きを示したり、藤原成親・平清盛

など世を乱した人物を非難したりする語であり、物語展開と関わって主要人物への評として使われる語である。対する延慶本の「うたてし」は、後白河法皇を含め世にある全ての人の、世を疎ましく思う心情や、世に執心する人への嘆きを読み取れる語であり、物語内容を仏教的に価値付ける語である。

- ▶ 城阪早紀「『覚一本平家物語』の「まさなし」と「うたてし」 語句分析から伝本の相違を考える」『同志社国文学』95、2021年12月、pp.15-30。
- ▶ 城阪早紀「『延慶本平家物語』の「きたなし」・「まさなし」と「うたてし」 語句分析から伝本の相違を考える(二)」『同志社国文学』96、2022年3月、pp.9-24。

「あさまし」

覚一本は、「あさまし」を治承四年の平清盛の悪行に集中して用いることで、王法・仏法が滅びるという前代にはなかった「あさましき」事態の到来を物語る。一方の延慶本が物語を捉える射程は覚一本よりも長く、先例を引くことによって「あさましき」ことが繰り返されてきた歴史の連続性のなかに源平の興亡を位置づけている。

- ▶ 城阪早紀「平家物語「あさましき」こと考 語句分析から伝本の相違を考える(三)」同志社大学文化学会編『文化学年報』71、2022年3月、pp.417-449。

そのほかの語句

そのほか、研究協力者による「天」「鬼」「鬼神」「法華経」についての分析がある。

- ▶ 嶋中佳輝「『平家物語』「天に仰ぎ」考」『語句分析から『覚一本平家物語』と『延慶本平家物語』の相違を考える』成果報告書、2022年3月、pp.38-47。
- ▶ 八木智生「『平家物語』の「鬼」と「鬼神」」『語句分析から『覚一本平家物語』と『延慶本平家物語』の相違を考える』成果報告書、2022年3月、pp.48-64。
- ▶ 高山卓「『平家物語』における表現としての「法華」」『語句分析から『覚一本平家物語』と『延慶本平家物語』の相違を考える』成果報告書、2022年3月、pp.65-73。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 城阪早紀	4. 巻 95
2. 論文標題 『覚一本平家物語』の「まさなし」と「うたてし」 語句分析から伝本の相違を考える	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 同志社国文学	6. 最初と最後の頁 15 - 30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 城阪早紀	4. 巻 96
2. 論文標題 『延慶本平家物語』の「まさなし」・「きたなし」と「うたてし」 語句分析から伝本の相違を考える（二）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 同志社国文学	6. 最初と最後の頁 9 - 24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 城阪早紀	4. 巻 71
2. 論文標題 平家物語「あさましき」こと考 語句分析から伝本の相違を考える（三）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 文化学年報	6. 最初と最後の頁 417 - 449
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 城阪早紀	4. 巻 -
2. 論文標題 平家物語伝本語句対照表試稿	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 語句分析から『覚一本平家物語』と『延慶本平家物語』の相違を考える	6. 最初と最後の頁 2-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 嶋中佳輝	4. 巻 -
2. 論文標題 『平家物語』 「天に仰ぎ」考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 語句分析から『覚一本平家物語』と『延慶本平家物語』の相違を考える	6. 最初と最後の頁 38-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 八木智生	4. 巻 -
2. 論文標題 『平家物語』の「鬼」と「鬼神」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 語句分析から『覚一本平家物語』と『延慶本平家物語』の相違を考える	6. 最初と最後の頁 48-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高山卓	4. 巻 -
2. 論文標題 『平家物語』における表現としての「法華」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 語句分析から『覚一本平家物語』と『延慶本平家物語』の相違を考える	6. 最初と最後の頁 65-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	嶋中 佳輝 (SHIMANAKA Yoshiki)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	八木 智生 (YAGI Tomoki)		
研究協力者	高山 卓 (TAKAYAMA Taku)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関